

グローバルに展開し成長する全員参加の開発型企业

第158期 報告書

2016年4月1日~2017年3月31日

TOMOEAWA BUSINESS REPORT



<http://www.tomoegawa.co.jp>

■ ごあいさつ

■ 第158期(2016年度)の業績

2016年度における世界経済は、一時的にリスクが高まる時期はあったものの、米国を中心に緩やかな回復が進みました。このような状況の下、当社グループにおいては、洋紙関連や磁気製品関連を中心に既存製品の市場縮小が続く一方、年度後半に向けてディスプレイ関連での粘着新製品や半導体用テープ製品などの販売が大きく増加し、トナーの出荷量も増加しました。

これらの結果、連結売上高は前期に比べ11億2千3百万円減収の323億7千9百万円(前期比3.4%減)となりました。利益面では、年度が進むにつれて売上が増加する中で生産性向上の効果や、エネルギー・原材料コストの低減効果も徐々に発現してきたことに加え、為替レートが第2四半期までの円高から第3四半期以降は円安に転じたことによる連結決算処理上で発生する増益影響が加わり、連結営業利益は8億6千3百万円(同197.5%増)となりました。連結経常利益は、この為替レート変動による決算処理上の営業増益影響と同額を為替差損に計上した上で、第1四半期末の急速な円高の進行による外貨建て取引計上時と決済時の為替レート差による為替差損の計上があった一方、FPD関連事業での持分法投資損益が大きく改善したことから、前期の1千8百万円の赤字から4億6千5百万円(前期比4億8千3百万円の改善)へと黒字回復を果たしました。親会社株主に帰属する当期純利益も、旧新宮工場導水管設備の原状回復工事を、次年度以降行うことに伴う特別損失や、米国トナー生産子会社再構築費用等を特別損失に計上したものの、当社保有株式売却に伴う特別利益の計上もあり、減損損失を計上した前期の9億2千9百万円の赤字から2億5千2百万円(前期比11億8千2百万円の改善)へと黒字回復しました。

■ 第6次中期経営計画のローリングについて

2018年度を最終年度とする中期経営計画ローリングプランの遂行にあたり、IoT(Internet of Things)の時流を踏まえ、

重点分野となる熱・電気・電磁波コントロール材料分野への経営資源の積極的投入を進めていきます。また、既存事業の体質改善と地道な拡販活動を続けるとともに、エネルギーと原材料コストの低減や生産性向上等の施策を推進して成長軌道への回帰を目指しております。



■ 第159期(2017年度)の展望

中期経営計画ローリングプラン2年目となる2017年度の連結業績予想については、ディスプレイ関連粘着製品や半導体電子部品用テープ製品などの販売が引き続き堅調に推移する見通しであることや、トナーの積極的な拡販活動により、連結売上高330億円(前期比1.9%増)を目指します。利益面では、中長期的な効果を期待した設備投資による経費増や為替レートの安定した推移などを見込むことにより、営業利益5億円(同42.1%減)、経常利益5億円(同7.4%増)を見込んでいます。これに設備投資実行に伴う解体工事費用などを反映し、当期純利益は1億円(同60.5%減)を見込んでいます。なお、2017年度は中国事業の決算期を3月決算期に統一いたしますが、通期業績に対しては、大きな影響は無いと見込んでおります。

次期の配当予想については、安定的な配当を継続実施していく基本方針に則り、1株当たり5円の期末配当を継続する予定です。

株主の皆様におかれては、引き続きのご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長

井上善雄

業績ハイライト

トピックス

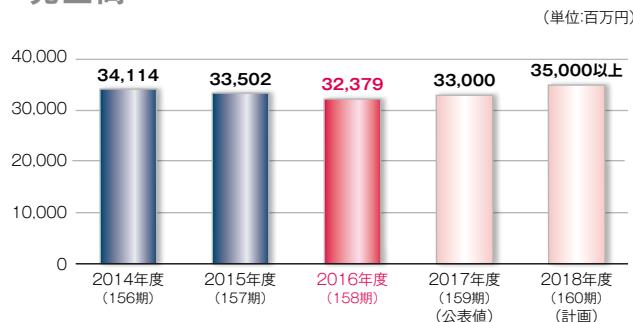
経常利益・当期純利益の黒字回復

生産性向上やエネルギー・原材料コストの低減効果、さらに為替レートが期末に向け円安に振れたことに加え、FPD関連事業での持分法投資損益が改善したことから、経常利益は大きく改善しました。あわせて、特別損益も大きくプラスに転じたことにより、当期純利益は前期の赤字から黒字に回復、大幅な改善となりました。

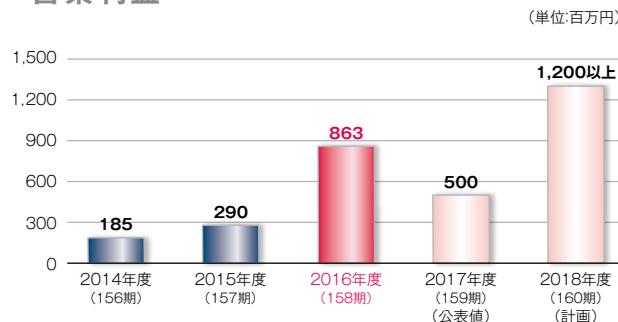
第6次中期経営計画ローリングの更なる推進

第6次中期経営計画ローリング初年度は、利益面においては計画を上回ることができました。今後も引き続き、重点分野となる熱・電気・電磁波コントロール材料分野への経営資源の積極的投入を進め、拡販に努めていきます。最終年度の2018年度には連結売上高350億円以上、営業利益12億円以上を目指します。

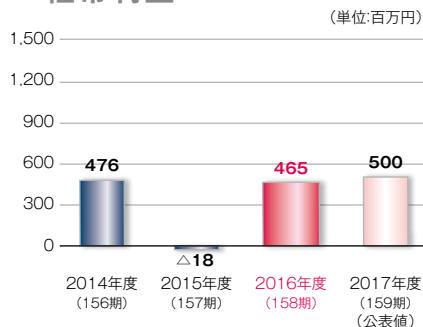
■ 売上高



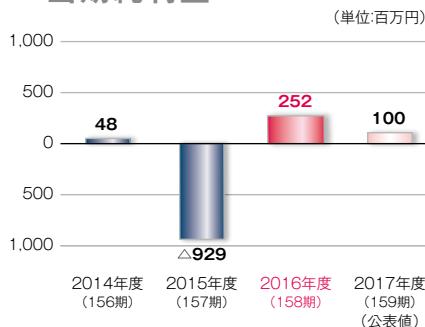
■ 営業利益



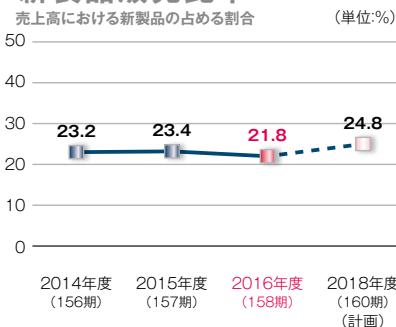
■ 経常利益



■ 当期純利益



■ 新製品販売比率



■ 連結財務諸表

■ 連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	2015年度 (2016年3月31日)	2016年度 (2017年3月31日)	
資産の部			0
流動資産	20,358	20,004	10,000
固定資産	19,041	18,270	20,000
			30,000
			40,000
合計	39,399	38,275	

(単位:百万円)

科目	2015年度 (2016年3月31日)	2016年度 (2017年3月31日)	
負債・純資産の部			0
流動負債	17,195	15,422	10,000
固定負債	9,708	9,592	20,000
純資産	12,495	13,260	30,000
			40,000
合計	39,399	38,275	

自己資本比率の改善

ポイント①

エネルギーや原材料コストの低減など生産面での改善や、持分法による投資利益の計上により、当期純利益は減損損失の計上があった前年度と比べ12億円近い改善。

ポイント②

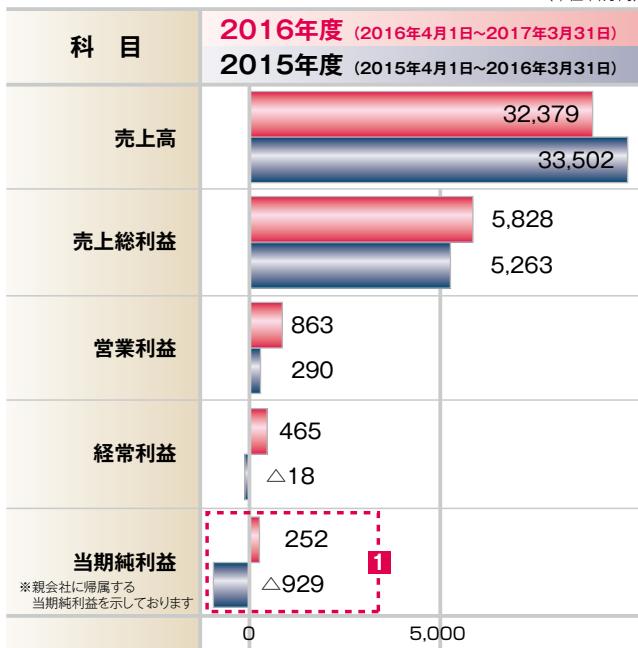
16億円近い有利子負債の削減。

これらにより、自己資本比率は、前年度の27.9%から30.6%へと大幅に改善。財務体質の強化を、今後の事業戦略につなげてまいります。



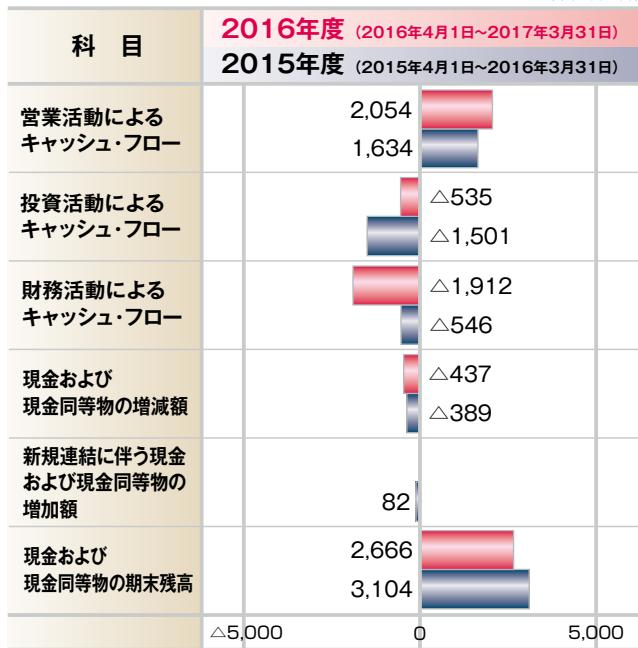
■ 連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)



■ 連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

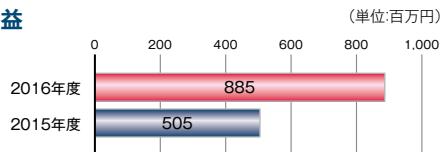
(単位:百万円)



■ 主なセグメントの事業概況

プラスチック材料加工事業

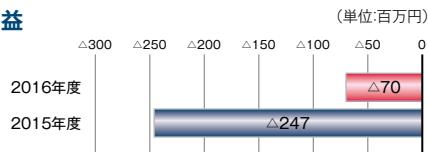
営業利益



ディスプレイ関連での粘着新製品や半導体用テープ製品などの販売が好調に推移し、トナーの出荷量も増加しました。また生産性向上の効果やエネルギー・原材料コストの低減効果も発現し、対前年度75.2%増の増益となりました。

製紙・塗工紙関連事業

営業利益



洋紙関連や磁気製品関連を中心に既存製品の市場縮小が続いたことに加え、前期末の出荷増の反動などもあり売上が低迷したものの、生産性向上の効果やエネルギー・原材料コストの低減効果が徐々に発現してきました。この結果、損益は7千万円の損失となったものの、対前年度では1億7千7百万円の大幅な改善となりました。



IoTやAIの進化という時代のニーズを先取りし、 電子部品のノイズや熱の対策をシートで実現

当社では1914年の創業以来、時代のニーズに即した数々の世界初・日本初の製品を創出し、世の中に価値を提供してまいりました。

IoTの時流が加速してゆく今日、ハイパワー化する電子部品が抱える課題（高電圧・大電流・高周波による発熱やノイズ障害など）への対応が強く求められております。このような市場のニーズに応えるべく、当社は創業以来培ってきた電気物性評価技術に「抄く」・「塗る」二つの技術を組み合わせることで多方面からソリューションを提案いたします。

特に158期は、より高いレベルでの熱・ノイズ対策を求めるお客様に対して、当社ならではの知見と技術から、様々な素材を用いたユニークなシートを、次々と開発いたしました。こうした取り組みは、単に解決策を提供することに留まらず、お客様の電子部品の設計の自由度を増すことで、新製品の創出を促進させることが期待されております。



2016年10月、展示会「FCEATEC JAPAN 2016」で銅繊維シートを発表

iCas新製品の一例

銅繊維シート

紙と銅素材の持つ特徴を両立した世界初の材料

「銅の持つ高い導電性・放熱性」と「紙の持つフレキシブル性・クッション性・軽量性」をあわせ持つシートです。独自の繊維結合によってステンレス紙の50倍、カーボン紙の100倍にもなる高い導電性を有する一方、多孔質構造による高い放熱性を示しています。IoTを支えるあらゆる電子・電気製品及び関連部品の設計・構造を根本から変える材料として注目が高まっています。



600°C耐熱樹脂繊維シート

高耐熱性と温度変化に対する形状安定性を有するユニークな材料

高耐熱と絶縁、低熱膨張性を多孔質材料で実現したシートです。樹脂材料でありながら500~600°Cの環境下で使用可能であり、ポリアミド樹脂より+100°C、アラミド樹脂より+120°C程度高い耐熱性を保有し、電子部品のハイパワー化にも最適です。

ダイヤモンド研磨シート

特殊耐熱樹脂とダイヤモンドからなる高耐熱・長寿命の研磨材料

機能性不織布やフィルムなどの基材に、ダイヤモンドと樹脂を塗布などにより配置したシートで、300°C以上の使用環境に耐え、研磨特性を維持できるのが特徴です。ガラス、セラミックス材料、金属部品などの多様な精密研磨、微細加工に展開可能です。

会社概要

(2017年3月31日現在)

商号	株式会社巴川製紙所 (TOMOEGAWA CO.,LTD.)
創業	1914年(大正3年)6月19日
設立	1917年(大正6年)8月15日
資本金	2,894,953,550円
従業員数	連結 1,150名 単独 362名
主要事業所	本社(東京都中央区) 静岡事業所(静岡市駿河区) 清水事業所(静岡市清水区) 大阪営業所(大阪市生野区) グループ会社事業拠点 静岡市、大阪市、岡山市、潮来市 米国、オランダ、中国、香港、韓国、インド、台湾、ドバイ

役員 (2017年6月23日現在)

取締役

代表取締役社長	井上 善雄
取締役 専務執行役員 機能紙事業部管掌 兼 画像材料事業部管掌	今田 俊治
取締役 専務執行役員 社長補佐	三井 清治
取締役 専務執行役員 営業本部長	畑澤 敏之
取締役 常務執行役員 CFO 経営戦略本部長	山口 正明
取締役 常務執行役員 CTO 事業開発本部長	井上 雄介(新任)
社外取締役	林 隆一(新任)
社外取締役(監査等委員会委員長)	小森 哲郎
社外取締役(監査等委員)	鮫島 正洋
社外取締役(監査等委員)	鈴木 健一郎

執行役員

上席執行役員 生産本部長 兼 品質保証統括室管掌	作本 征則
上席執行役員 電子材料事業部長	須川 美久
執行役員 電子材料事業部副事業部長	村田 力
執行役員 画像材料事業部長 兼 社長室管掌	岡本 圭介(新任)

株式の状況

(2017年3月31日現在)

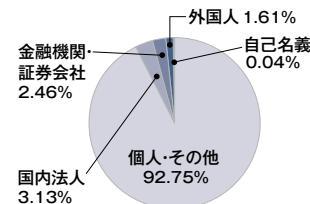
発行可能株式総数	100,000,000株
発行済株式総数	51,947,031株
株主数	2,428名
大株主	

株主名	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
凸版印刷(株)	5,697	11.0%
栄紙業(株)	3,336	6.4%
昌栄印刷(株)	3,314	6.4%
鈴與(株)	2,494	4.8%
三井化学(株)	2,439	4.7%
(株)三井住友銀行	1,979	3.8%
巴川製紙取引先持株会	1,838	3.5%
三弘(株)	1,751	3.4%
東紙業(株)	1,736	3.3%
井上善雄	1,504	2.9%

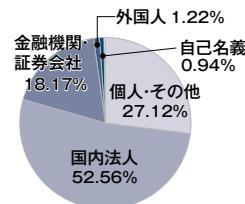
※所有株式の割合は、自己株式(486,917株)を控除して計算しております。

株主の分布状況

株主数比率



株式数比率



株主メモ

証券コード 3878

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月下旬

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関

同 連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
☎ 0120-232-711 (通話料無料)

同 取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

上場証券取引所 東京証券取引所

公告方法 電子公告により行う
公告掲載URL <http://www.tomoegawa.co.jp>
(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、東京都において発行する日本経済新聞に公告いたします。)

1単元の株式数 1,000株

TOMOEAWA

株式会社巴川製紙所

本 社 〒104-8335 東京都中央区京橋1-7-1

静岡事業所 〒421-0192 静岡県静岡市駿河区用宗巴町3-1

清水事業所 〒424-0831 静岡県静岡市清水区入江1-3-6

大阪営業所 〒544-0034 大阪府大阪市生野区桃谷1-3-23

本報告書についてのお問合せ先

経営戦略本部 企画グループ

TEL : 054-256-4319

<http://www.tomoegawa.co.jp>



TOMOEAWA BUSINESS REPORT (報告書) については、弊社ホームページでの各種開示を一層充実させることで、株主の皆様への送付は、年1回6月頃のみとさせていただきます。

中東・ドバイ支店の設置

2017年2月に、ドバイに支店を開設しました。グローバル戦略の一環として中東市場における当社ブランドの地位確立を目指します。また将来的には、現地子会社として発展することを期待しています。



TOMOEAWAの技術力を国内外で発信

当社が重点分野と定めた熱・電気・電磁波コントロールにおけるiCas関連や光関連部材の開発品を、国内外の展示会に積極的に出展することで、新たな販路開拓や更なるニーズの掘り起こしに注力しています。

2016年10月には銅繊維シートをリリース、「CEATEC JAPAN 2016」で大きく注目を集め、年明けの1月に開催された「第18回電子部品・材料EXPO」でも好評を博しました。

光関連部材では、3月に米国ロサンゼルスで開催された光通信関連では世界最大の展示会である「OFC2017」に出展し、光配線ソリューションや光コネクタ向け粘着タイプの清掃用具などを紹介しました。

さらに本年5月に開催された「人とくるまのテクノロジー展2017横浜」にも出展し、電気自動車や自動運転技術が進化する自動車業界に向けて、TOMOEAWAのシート材料で新たな可能性を提案しました。銅繊維シートを筆頭に特殊抄紙技術と塗工技術を駆使した各種機能性シートが、自動車業界を中心とした皆様から大変ご好評をいただきました。

TOMOEAWAはこれからも時代のニーズに応える製品作りを目指していきます。

